

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	リーサル・パラノイア	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.530	△RG	0.047	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：LETHAL PARANOIA

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：PARANOIA

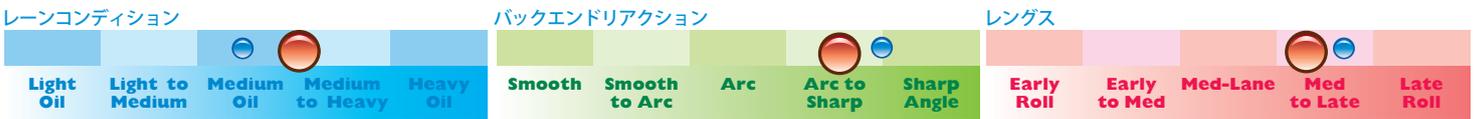
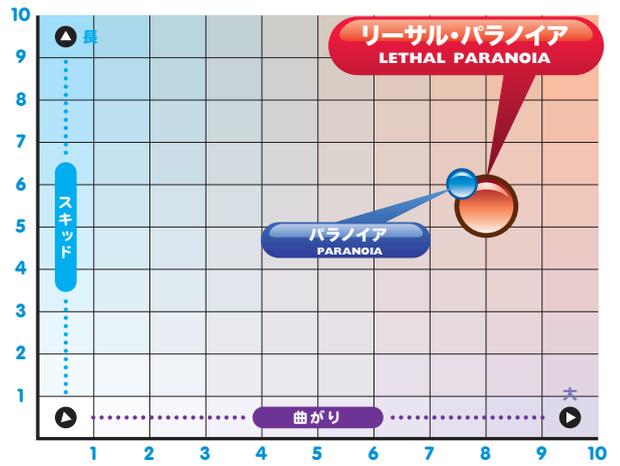
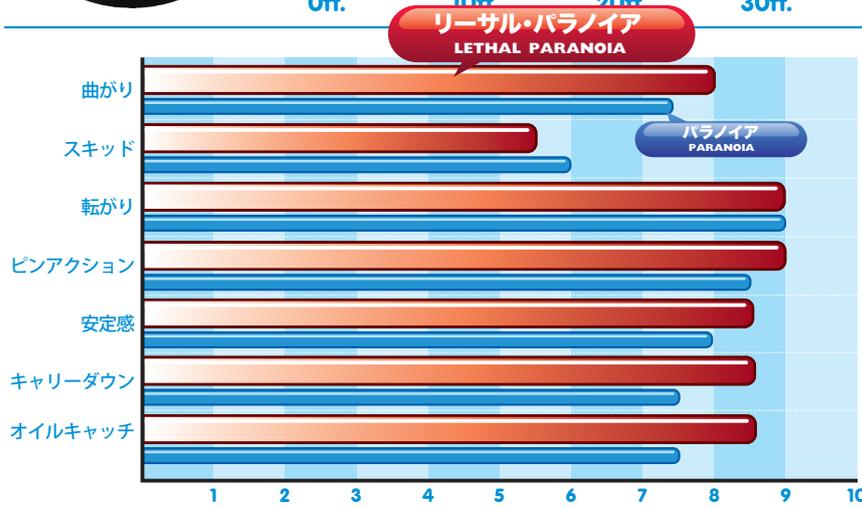
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

PARANOIAと聞けば、心臓部のOblivion Coreが爆発的な角度を生み出し、Backendで激しいリアクションを得られるボールの代名詞でした。Oblivion CoreはMOTIV社の中でできるだけエネルギーを保持するために高いRGを使い、Backendにイメージをおけるボールを作成するときに使われます。今回のLETHAL PANANOIAも歴代PARANOIAの中でBackendで角度のある動きのDNAを受け継いでおり、TRIDENT QUESTで初めて採用されたHexion ReactiveのHybrid CoverStockを搭載させたことで、スキッド重視の性能のなかにキャッチをだし、PARANOIA特有のBackendの動きが意図して明確に感じるような仕上がっています。

テストドライブで感じたことはPARANOIAほどスキッドは軽くなく、オイルの中を滑らかに走ります。走りながらも曲がる為の減速を捉えられるCoverstockの強さ、キャッチを優先させるのではなくスキッド感のなかに若干のキャッチを感じさせながらレーンとコンタクトをとれる表面仕上げ。TRIDENT QUESTでも感じた独特なスキッド感がこのLETHAL PANANOIAでも共通の感じでした。TRIDENT QUESTと比較投球すると、Coreの影響が強くてTRIDENT QUESTの方が早めにHookに入ろうとするのが読み取れます。一方LETHAL PANANOIAはOblivion Coreのやや高めRGでTRIDENT QUESTで曲がり始めたラインも直進性が勝るようです。ですのでややMidで動きを一回捉え、そこからの安定した軌道を読みにくいボウラーはTRIDENT QUEST。早めのHookよりも先での動きが読みやすいタイプならばLETHAL PANANOIAという位置づけでも良いと思います。各々曲がり始めが違う分、コンディションの攻め具合も変わるでしょう。

上記の通りそのようなコンディションでボールアジャストでラインを攻めるのも一つではないかと思えます。

特記事項

PARANOIAの最新作は粘りのあるHexionのHybridバージョン。5500 Grid LSPの光沢のある仕上げでスキッドの中に滑らかなキャッチを感じる仕上げです。